

京都市の公営交通事業は、地下鉄烏丸線・東西線と、市バス路線とのネットワークにより、ＪＲ・私鉄、民間バスとともに、市民の皆様のくらしと多様な社会経済活動を支え、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を牽引する公共交通機関として、重要な役割を担っています。

市バス・地下鉄事業ともに、これまでに幾度となく非常に厳しい経営環境にありましたが、全庁挙げての増客や駅ナカビジネスなど増収の取組、徹底した経費削減など、数次にわたる経営健全化の取組により経営改善を果たしてまいりました。

令和２年２月以降は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、両事業ともかつてない危機的な経営状況に直面しましたが、アフターコロナにおいて、令和６年度決算では、お客様数の回復や平均乗車単価の改善をはじめとする「なりふり構わない経営改善」の効果もあり、両事業とも何とか２年連続で黒字を確保することができました。

しかし、市バスでは令和６年９月に「市バス運転士不足 非常事態宣言」を発出したとおり担い手不足が深刻化しており、これに対応するための人件費や物価の高騰、地下鉄では毎年減少させているとは言うものの依然として多額の企業債残高を抱えるなど、引き続き厳しい経営状況が続いています。また、観光利用の回復に伴い、市バスが混雑し、市民の皆様にご迷惑をおかけしていることも解決すべき重要課題です。

こうした中、オーバーツーリズム対策として、松井孝治市長が目指す全国初のパイロットプロジェクトである「市バス等の市民優先価格」の実施を目指した取組を進めるとともに、観光特急バスの運行、移動経路の分散化や「手ぶら観光」など「市バスの混雑対策」と「担い手不足への対応」を重要課題に位置付け、様々な取組を積極的に推進してまいりました。

引き続き、持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指し、「攻めの視点」をもって全職員が一丸となって経営に取り組んでまいります。

令和７年１２月
京都市公営企業管理者
交通局長 北村 信幸

目 次

I	総 括	
1	令和6年度の市バス・地下鉄事業の総括	1
2	主 な 取 組	11
3	機 構	15
4	職 員 数	18
II	自動車運送事業(市バス)	
1	営業設備	19
(1)	バス路線	19
(2)	バス車両	43
(3)	事業所及び案内所等	46
(4)	その他	47
2	運輸成績	51
(1)	業務量	51
(2)	旅客数及び旅客収入(1日平均)	52
(3)	券種別旅客数・旅客収入(市バス)	53
(4)	最近5か年の運輸成績の推移	55
(5)	創業以来の運輸成績及び職員数	56
(6)	財政収支の推移(昭和53年以降)	58
(7)	その他	59
III	高速鉄道事業(地下鉄)	
1	営業設備	62
(1)	地下鉄路線	62
(2)	地下鉄車両	63
(3)	事業所等	65
(4)	駅設備	66
2	運輸成績	67
(1)	業務量	67
(2)	旅客数及び旅客収入(1日平均)	68
(3)	券種別旅客数・旅客収入(地下鉄)	69
(4)	最近5か年の運輸成績の推移	71
(5)	創業以来の運輸成績及び職員数	72
(6)	財政収支の推移	73
(7)	その他	74

IV	資産の有効活用及び附帯事業	
1	資産の有効活用	77
2	地下鉄駅構内営業料収入	78
3	広告料収入の推移	79
V	そ の 他	
1	月別旅客数・旅客収入の推移等	80
(1)	自動車運送事業(市バス)	80
(2)	高速鉄道事業(地下鉄)	82
(3)	年度別旅客数の推移	84
(4)	定期券の種類別収入額	85
(5)	カード乗車券発売枚数の推移	86
(6)	京都市域内交通機関別輸送状況の推移(1日当たり)	88
2	財政状況	89
(1)	令和6年度経常収支の内訳	89
(2)	最近5か年の経常収支等の推移	90
3	市バス・地下鉄の安全対策の推進	92
(1)	市バス事業の安全対策	92
(2)	地下鉄事業の安全対策	94
4	参考資料	95
(1)	沿革	95
(2)	主要事項年表	95
(3)	運賃表	111
(4)	市バスの運転系統表(令和7年3月22日実施)	117
(5)	停留所別乗降人員	124
(6)	運転系統図(令和7年3月31日現在)	132
(7)	用語の解説	140

(添付) 市バス免許路線図